

一般社団法人 大学コンソーシアム熊本
令和6年度 第3回教育のあり方に関する協議会議事要録

1. 日 時 令和 7 年 1 月 16 日(木) 13時00分～13時53分

2. 開催方向 オンライン開催 (Zoom)

3. 出席者

講 師 富永 隼行 (熊本県 企画振興部長)

出席者 金 栄緑 (企画・運営委員長：熊本学園大学)、養田 千夏 (代理：九州看護福祉大学)、宮内 琢也 (代理：九州ルーテル学院大学)、西村 明博 (熊本学園大学)、鈴木 元 (熊本県立大学)、佐藤 敏明 (熊本高等専門学校)、古庄 宏光 (代理：熊本大学)、河瀬 晴夫 (熊本保健科学大学)、長島 宏一 (崇城大学)、井坂 和義 (中九州短期大学)、宇都 香織 (平成音楽大学)、井上 雄一朗 (代理：熊本県)、三枝 敬明 (学生教育部会長)、坂本 憲昭 (熊本県教育庁)

欠席者 内村 秀之 (熊本県立短期大学校)、碓塚 光雲 (尚絅大学・尚絅大学短期大学部)、緒方 道郎 (東海大学)、内山 裕二 (放送大学熊本学習センター)、松永 直樹 (熊本市)、大谷 順 (国際交流部会長)、柳田紀代子 (地域創造部会)、鳥巢 勉 (熊本経済同友会)

陪席者 尾原 祐三 (熊本県立短期大学校)、小野 長門 (崇城大学)、古閑 陽一 (熊本保健科学大学)、村本 周三 (熊本県)、臼井 伸一 (東海大学)、永田 健吾 (熊本県教育庁) 今村 清寿 (熊本県教育庁)

事務局 松村 健史 (事務局長)、梅尾 由紀子 (次長)

4. 講 演

(1) 議長から講演の前に、以下の発言があった。

本日は、最初に熊本県企画振興部長の富永隼行氏から「熊本県内への若者定着に関する取組みについて」という演題での講演の後質疑応答の時間を設ける。その後、「熊本県における高等教育の将来像」というテーマで意見交換を行っていきたいとの発言があった。その後講演が行われた。

演題：「熊本県内への若者定着に関する取組みについて」

講師： 熊本県 企画振興部長 富永 隼行 氏

この後、質疑応答があった。

(質問) 熊本県の転出・転入者との関係において、熊本県の大学進学率は全国平均と比較して10%程低い、この転出・転入者の割合は全国他地域と比較するとどうか？

(回答) 転出・転入については東京一極集中が進んでおり、その他の地域は社会減が進んでいる。九州内では福岡県への集中が進んでいる。課題として考えるのは福岡への転出が多いこと、熊本は就職先も少ないし大学の数も少ない。ただし、全国と比較すると熊本の人口減少率は低く、もっと転出が進んでいる地域もある。

(質問) 県内・県外出身者に限らず地元へ帰るよう指導はしているが、肌感覚として都市部に流れている傾向はある。大分、宮崎との道路が整備されているが、道路が完成すればそちらに吸い上げられる可能性はないか？

(回答) 九州県内で長崎、大分等他県と取りあっているような状況ではないと認識している。

(意見) 熊本県と大学、熊本県と教育というような県とコラボしたプロジェクトを企画して欲しいと希望する。

5. 「熊本県における高等教育の将来像」について

事務局から、資料2に基づき、12月に開催された文部科学省中央教育審議会大学分科会高等教育の在り方に関する特別部会で配布された資料である旨の説明の後、学校基本調査の結果に基

づいた都道府県別の進学動向並びに答申案（概要）についての説明があった。本資料に基づき、意見を求め、熊本県教育委員会からは、引き続き高大連携・高大接続をお願いしたい旨の発言があった。

以　上